

# 人的要因による図書館資料の汚破損の現状と軽減する方策の提案

聖徳大学 文学部 図書館情報コース 月山 せな (〇はリーダー)  
アンケート実施: 〇長戸日向, 小山琴未, 斎藤 遥花, 山下 日菜子  
インタビュー実施: 〇安原理央, 伊藤 唯恵, 長谷川 穂子, 林 沙穂梨  
ポスター: 『おはそんなギョッと大集合』制作: 〇鈴木理沙, 仲田 詩音  
総括・分析・指導: 月山 せな

## ◎目的◎

人的要因による図書館資料の汚破損の現状と、利用者による図書館資料の扱い方の現状を明らかにし、人的要因による図書館資料の汚破損を軽減する方策を検討する。

## ◎研究方法◎

- 調査① 図書館員へのインタビュー調査
  - 調査② 大学生へのアンケート調査
- ※調査期間はいずれも9月下旬から10月上旬

### ◎調査1 図書館員へのインタビュー◎

調査目的: 図書館がどのような資料の汚破損に悩まされているのか、また、どのような対策を行っているのかを明らかにする  
調査対象: 公立図書館3館、大学図書館3館

結果1: 人的被害の種類

公立では水ぬれ、大学では書き込みが多い!

書き込み、切り抜き、折込み、破れ、日焼け、指なめじみ、水ぬれ、貸割れ、セロハンテープによる補修、頁の上の破れ、血痕、食べこぼし、指の油じみ、子ども・ペットによる「かじり」

結果2: 行っている対策

「インコシレッダー」が有名!

返却時のチェック、汚破損資料の展示、雨の日に袋を渡す、見回り、飲食禁止の標識

結果3: 人的被害への対策に対する図書館員の共通意識

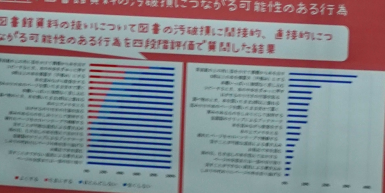
- ネガティブな標識を出したくない(例:「〇〇禁止」)
- 利用者が図書館資料をみんなのものだと認識していないことが根本原因!

### ◎調査2 大学生へのアンケート調査◎

調査目的: 利用者の図書館資料についての扱い方の傾向、また、図書館資料への意識を明らかにすること  
調査対象: 聖徳大学生  
実施方法: 多様な学科の学生が集まる授業で配布回収  
有効回答数: 167件  
質問項目: 別添

結果4: 図書館資料の汚破損につながる可能性のある行為

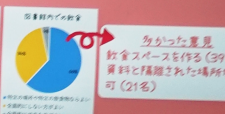
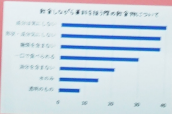
図書館資料の扱いについて図書館の汚破損に間接的、直接的につながる可能性のある行為を四段階評価で質問した結果



図書館資料の扱いとして不適切な行為であると知らなかった項目を抽出して示した質問の結果

- 資料の汚破損につながる行為の上位は、資料収庫や文献調査の際に行いやすい項目
- 学生の7割が行為の上への指がけ行為はやってはいけないという認識不足から起きている!

## 結果5: 飲食に対する意識



多かった意見  
飲食スペースを作る(29名)  
資料と隔離された場所を5可(21名)

図書館資料と共に飲食をすることは無頓着な反面、図書館内での飲食に対しては問題意識をもっている

Why?  
図書館という空間においては、これまでの教育や日本人としての特性(集団に合わせる)が働き、飲食はしないほうがよい、資料は公共財であると感じている。一方で、図書館外では緊張感や秩序から解放され、公共財であるということの意識が薄れてしまうのではないかと

結果6: 図書館資料と自分で購入した本の扱い方  
「自分の本のほうが丁寧に扱う」「同等に扱う」「図書館の本のほうが丁寧に扱う」の順で尋ねた結果

図書館情報学専攻の学生は「図書館の本のほうが丁寧に扱う」割合が高かった!

## ◎人的要因による図書館資料への被害を軽減する方法の検討◎

結果のまとめ

- ① 人的要因による図書館資料の汚破損被害は一定程度存在しているが、図書館員は、ネガティブな対応を希望している(結果1・3)
- ② 利用者は、認識不足によって図書館資料を不適切に扱ってしまう可能性がある(結果4)
- ③ 図書館資料が公共財であるとの認識が薄れたときに不適切に扱ってしまう可能性がある(結果5)
- ④ 図書館情報学を学ぶと図書館資料を丁寧に扱う可能性がある(結果6)

司書資格課程で学ぶような(④)基本的な資料の扱い方を周知し(②)、公共物であるとの認識を高めるような(③)利用者教育が有用!

すでに行われている汚破損資料の現物展示などがこれを満たすが、ネガティブでない(①)とは言いきれない。

## ◎「おはそんなギョッと大集合」の提案◎

大学図書館で初年度の図書館室内の隅に取り入れられる試みとして、ネガティブさを控えかわいらしくデザインした、『おはそんなギョッと大集合』(あらゆる汚破損のパターンを表現した手(紙)本の配布を提案する(原案資料)。これにより不適切な扱いがどのような汚破損につながるかが学んでもらう。また、公共財であるとの認識を高める試みとして、『おはそんなギョッと大集合』にニューアーク式貸出カードを併用する。貸出カードはプライバシーの問題で欠点があるため現在の図書館では否定されているが、自分以外に借りる人の存在を認識することができるという点では、適した教材である。SNS世代の大学生にとってだけとはつながることは身近な事柄であり、そうした意識を図書館でも醸成できたら素晴らしい。

この取組にお問い合せ先  
Email: katayama@seitoku.ac.jp